

おかげさまで
創業70周年

gentenkaiki

原

点

快

喜



マツダ車に欠かせない「滑り剤」を長年提供 広島のビルメンテナンス業界の先駆者的な側面も

広島物産株式会社 代表取締役社長

かわつま りえ
川妻 利絵 氏

■先見の明があり、情熱にあふれていた創業者

創業者の川妻卓二は1900（明治33）年、広島市南区千田町で生まれ、広島高等師範学校、早稲田大学を卒業後、総合商社の鈴木商店に入社しました。その後、鈴木商店の関連会社である「帝国人造絹糸（現在の帝人）」の社員として東京勤務となりましたが、37歳の時に敗血症を発症し、右足を切断。退院後に広島工場勤務となつてからは義足と松葉杖を使って通勤し、取締役の任務も務めた上で1954年に定年退職いたしました。

大企業を定年退職し、ましてや隻脚でもあるのだから「余生は悠々自適に過ごしてもいいのでは」と私などは思うのですが、卓二は定年退職した年の6月26日に当社を立ち上げています。広島の地で生かされた宿命から「世の中の役に立ちたい」という思いを強く持っていたのだと思います。まずはワックスメーカーであるリンレイ様の代理店として事業をスタート。また、帝人時代に培った繊維の知見とネットワークを見込まれ、マツダ様が当時製造されていた三輪自動車の荷台を覆う幌（ほろ）の製造・納品にも携わっていたようです。

時代の流れで三輪自動車は姿を消してしまいましたが、マツダ様からのお声がけで新しいプロジェクトが始まります。目的は金属とゴムをスムーズに接続させるための滑り剤の開発。マツダ様、マツダ病院様、化学メーカー、当社で共同開発を進め、試行錯誤の末に誕生したのが「アルホームMN」です。自動車のタイヤとホイールの接続面、エンジンの機械とゴム製のパイプとの接続部分、窓ガラスと窓枠の境目などに用いられる製品です。伝え聞いている話だと、マツダ車の海外展開に際しては想像を絶するほどの耐性・品質に関するテストが繰り返されたとのこと。人の命をお預かりする自動車の心臓部である「エンジンまわり」に使用される責任の重さを認識させられるエピソードだと思います。「アルホームMN」は誕生してから現在に至るまで愛用いただいているロングセラー商品であり、海外からもオファーが寄せられるほどの品質を誇る当社自慢の一品となっています。

■黎明期に「ビルメンテナンス」に挑戦し、のちに分社化

前述の事業と並行して当社が取り組んでいたのが、戦後の日本に新しく誕生した「ビルメンテナンス」の仕事です。創業者はビルなどの建物が皆無だった広島の地で「ビルメンテナンス」に先駆者的に着手。「広島ビルメンテナンス協会（当時の名称は広島美装工業組合）」の設

立（1959年）にも積極的に協力し、業界全体の活性化にも尽力。しばらくの間は「広島物産」としてビルメンテナンスの仕事を手がけていましたが、1961年に分社化して「広島管財株式会社（現・ひろしま管財株式会社）」を設立しました。同社は現在多くのお取引先様からご愛顧いただき、200人以上のスタッフで幅広い事業に取り組んでいます。

創業者の卓二は私の祖父にあたります。松葉杖を手放せない生活は不便だったと思うのですが、それを言い訳にしたり、コンプレックスに思う姿を私は見たことはありません。給料日には松葉杖を両腕に挟み、自分の足で立ってお給料を手渡し、従業員と握手を交わす姿が特に印象に残っています。2005年に主婦だった私が前社長の跡を継ぎ、2つの会社の代表を務めることになったのは思いもよらない出来事でした。これまでに何度も困難に直面しましたが、記憶の中の祖父の生き様に奮い立たされたことが数え切れないほどあります。

70周年を迎えた今の心境は「お取引先様あつての広島物産」と改めて感謝の気持ちでいっぱいということですよ。「広島物産」は「ひろしま管財」の前身となった企業であり、親会社のような位置付けでもあり、すべての出発点。今までも、これからも、とても大切な存在であることには変わりはありません。祖父や父から教わった「感謝することの大切さ」を胸に、この先も歩んでいきたいと思っています。



アルホームMN

DATA

- 社名 広島物産株式会社
- 所在地 広島市中区大手町5-7-17
- 創業 1954（昭和29）年6月26日
- 事業内容 各種商品卸売業
- 資本金 1,000万円
- 従業員数 5人